

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

税金と私たちの生活

大川市立大川桐薫中学校

三年 本 村 篤 志

私たちの暮らしの中で、税金という言葉を目にするのは多い。ニュースや新聞で「増税」や「税制改革」などの話題が取り上げられるたびに、大人たちは難しそうな顔をしている。しかし、税金は私たちが思っている以上に身近で、大切な存在だ。今回は、税金が果たしている役割や、なぜ必要なのかについて、改めて考えてみたい。

まず、税金とは何だろうか。簡単に言えば、国や自治体が、国民から集めるお金のことだ。私たちが働いて得た収入にかかる「所得税」や、買い物の際に支払う「消費税」、車を持っている人が払う「自動車税」などさまざまな種類の税金がある。これらの税金は、政府の収入となり、社会のために使われている。

では、税金は具体的に使われているのだろうか。たとえば、私たちが通う学校。教室の机や椅子、教科書、先生の給料など、学校を運営するために必要な費用は、すべて税金によってまかなわれている。また、道路や橋、公園といった公共施設の整備、警察や消防などの安全を守る仕事、病院や福祉の支援なども、税金によって支えられている。もし税金がなかったら、私たちは安心して暮らすことができなくなってしまうだろう。

さらに、災害が起きたときにも税金の力が発揮される。地震や台風などで被害を受けた地域の復興支援や避難所の設置、救助活動など、すべてに税金が使われている。国民全体で助け合う仕組みが税金であり、困った人を支える大切な制度だと言える。

しかし、「税金は高い」「負担が大きい」と感じる人も多いのも事実だ。自分が払った税金がどのように使われているのかが見えにくいいため、不信感を持つ人もいる。だからこそ、政府や自治体には、税金の使い道を明確に示し、無駄遣いをせず、公正で効率的な運営を行う責任がある。一方で、私たち一人ひとりも、税金の意義を理解し、関心を持つことが求められている。

最近では、学校でも税金について学ぶ機会が増えている。税の仕組みや社会の仕組みを知ること、私たちは将来、より良い社会をつくるために何ができるのかを考えることができるようになる。税金は単なるお金ではなく、未来への投資であり、私たちの暮らしを守る大切な道具なのだ。

私は、これから大人になり、働き始めたとき、自分の収入から税金を納めることになる。そのとき、「なぜ税金を払うのか」「そのお金はどこに行くのか」を知っていれば、納税にも責任を持てるだろう。そして、社会の一員として、より良い日本をつくる一歩を踏み出せるはずだ。

税金は、私たちの生活を支える土台だ。それを理解し、支え合いの心を持つことがより良い社会への第一歩であると私は考える。